

令和元年度 芳賀町立芳賀中学校 学校評価書

学校評価のねらい

すべての教育活動その他の学校運営が効果的に実施できているかどうか、保護者、学校、地域住民(学校評議委員=学校関係者評価委員)等が連携し、評価する。それらを通して、生徒がよりよい教育活動を受けられることをめざし、学校をよりよくするための方策を明らかにする。

1 校訓・教育目標

校訓	創造 敬愛 実践	教育目標	自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 たくましい生徒 ふるさとを愛する生徒	(創造) (敬愛) (実践) (本校の使命)
----	----------------	------	---	---------------------------------

2 目指す学校像

すべての生徒と職員が 夢を育み 知を磨き(創造) 心豊かに(敬愛) 汗を流して(心と体に汗をかく)(実践) 高め合う学校

3 学校経営の方針

基本経営理念:「芳賀町に誇りを持ち 明日の芳賀町を担う生徒の育成」	～誇れる、つよい学校・生徒づくり～
1 生涯学習社会に生きる生徒の育成	
2 望ましい生活習慣と社会性の育成	
3 確かな学力の保証	
4 豊かな心をもつ生徒の育成	
5 健やかな体をもつ生徒の育成	
6 全職員による学校経営参画(チーム学校の実践)	
7 家庭や地域、関係機関との協働による学校経営(チーム学校の実践)	

4 本年度の指導視座と重点項目

視座: 10年後の勝負に勝てる生徒を育てる
重点項目: 人間力の基礎・基盤をつくる…思いやりの心と確固たる生活習慣 →明日の、10年後の自分のために「時を守り 場を清め 礼を正す」

5 本年度の重点目標・努力点

1 確かな学力を身に付けた生徒の育成 プロジェクト知
①基礎的・基本的な知識や技能の定着
②課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成
③授業力の向上
④学習意欲の向上
2 豊かな心をもつ生徒の育成 プロジェクト徳
①道徳の授業の充実
②「特別の教科道徳」への準備
③学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の充実
3 健やかな体をもつ生徒の育成 プロジェクト体
①心身の健康増進
②部活動の充実
4 夢や目標に向かって力強く自己実現を図っていく生徒の育成 プロジェクト生き方
①学業指導の充実
②生活の基盤づくり
③生涯学習社会に生きる資質の育成

6 本年度の学校課題

時や場に応じて適切に自分の考えを表現できる生徒の育成 ～プロジェクト HAGA を核とした実践～

7 評価の仕方

評価ランク	評価規準
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

※ 具体的な取組は本年度、評価の【次年度の具体策】はともに教職員の具体策。目標指数は、本年度の教職員の目標指数(%)。

※ 自己評価表の数字は、A+B評価の割合(%)。()内は昨年度。

※ 達成状況の評価は、○：概ね満足 △：普通 ×：要検討

8 自己評価表

項目	評価項目 【目標指数(A+B)の肯定的回答】	主な具体的な取組	評価A+Bの肯定的回答(昨年度) 【次年度の具体策】
プロジェクト知	<p>1 生徒の学力の向上 生徒：授業の内容がよく分かる 保護者：学校は学力の向上を図っている 教職員：生徒の学力向上を図っている 学校関係者：学校は生徒の学力の向上を図っている</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 85% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・教科部会を活用した授業改善の継続。振り返り＝疑問を解く、できたことを実感する時間とする 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：83.6%(80.9%) ○ 保護者：84.1%(81.5%) △ 教職員：97.3%(97.4%) ○ 学校関係者：100% ・肯定的な回答が80%以上と、概ね達成されている。生徒、保護者とも昨年を少し上回り、授業改善への取組を少しずつ理解していただいていると感じる。</p> <p>【次年度の具体策】 ・教科部会を活用した授業改善 指導方法の統一化、わかる授業の展開 ・ICTの活用 ・ねらいの提示、振り返りの仕方の研究と継続実施</p>
	<p>2 コミュニケーション力 生徒：自分の考え発表することができる 保護者：学校は子どもの発表力向上を図っている 教職員：生徒の発表力、コミュニケーション力の向上を図っている 学校関係者：学校は生徒の発表力の向上を図っている</p> <p>【目標指数】 生徒 60% 保護者 75% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・「発表(表現)力」の指導方法を確立させ、教師側の指導スキルを向上させる 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：48.2%(47.5%) × 保護者：75.8%(75.8%) ○ 教職員：97.3%(100%) ○ 学校関係者：100% ・本年度も学校課題として取り組んできた。生徒は依然として発表に苦手意識をもっているが、講演会での多くの質問や授業中の発表など、少しずつではあるが、確実に力が高まっていると感じている。</p> <p>【次年度の具体策】 ・教師の指導スキルの向上を図る ・ペア、小集団での話し合いを継続し、発表の流れを創ることで、自信をもたせる ・コミュニケーション力を問うならばアンケート項目を変更</p>
	<p>3 学習意欲の向上 生徒：授業に一生懸命に取り組んでいる 保護者：学校は子どもの学習意欲の向上を図っている 教職員：生徒の学習意欲の向上を図っている 学校関係者：学校は生徒の学習意欲の向上を図っている</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 85% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・深い学びの技法を取り入れた授業を展開して、生徒の主体的・対話的な学びを生み出す 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：89.2%(89.2%) ○ 保護者：76.6%(76.8%) × 教職員：94.6%(100%) ○ 学校関係者：100% ・生徒の学習意欲はたいへん高い水準を維持している。教師側も教科部会を生かし、授業改善に取り組んでいる。保護者には何をやっているかわからないとの意見があるので、具体的な努力点を伝えていく必要がある。</p> <p>【次年度の具体策】 ・深い学びの方法を取り入れた授業を増やし、生徒の主体的・対話的な学びを生み出す ・課題設定の工夫</p>

	<p>4 家庭学習 生徒：家庭学習の仕方・習慣が身に付いている 保護者：学校は子どもの家庭学習の仕方を指導したり習慣化を図っている 教職員：生徒の家庭学習の仕方を指導したり、習慣化を図っている 学校関係者：学校は生徒の家庭学習の仕方を指導したり、習慣化を図っている</p> <p>【目標指数】 生徒 75% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・週末課題や学力向上の日の工夫と家庭学習力アップ大作戦の推進等</p>	<p>【達成状況】 生徒：72.6%(71.5%) △ 保護者：75.1%(78.3%) △ 教職員：89.2%(94.7%) △ 学校関係者：100% ・家庭学習については70%以上の肯定的な意見をj得ているが、依然として約4人に1人が否定的な意見ある。学力の向上には家庭学習の充実が不可欠である。学校と家庭とが連携し、学習方法を考え、意欲を高めていく必要がある。 【次年度の具体策】 ・学力向上の日のテストを週末課題とリンクさせて勉強させる ・家庭学習力アップ大作戦の工夫と推進</p>
	<p>5 授業力の向上（本年度新設） 生徒：授業が楽しく、わかりやすい 保護者：学校は、子どもに、楽しく、わかりやすい授業を提供している 教職員：生徒にとって、楽しく、わかりやすい授業を展開している 学校関係者：学校は、生徒に楽しく、わかりやすい授業を提供している</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開 ・授業公開、校内授業研究会の充実等</p>	<p>【達成状況】 生徒：76.3%(—%) △ 保護者：75.8%(—%) △ 教職員：100%(—%) ○ 学校関係者：100% ・教師の授業力の向上は、教師側の最大の課題であり、必要不可欠なものである。75%以上の肯定的な意見をいただいたことは一定の評価はできるが、その努力が生徒、保護者が実感できるようさらに努力したい。 【次年度の具体策】 ・教科部会での授業研究等の充実を図る ・効果のあった指導方法や資料の共有化を継続的に行う</p>
プロジェクト	<p>6 道徳の授業 生徒：道徳の時間に、テーマについて一生懸命考えている 保護者：学校は様々なテーマに沿った道徳の授業を展開している 教職員：年計に沿って道徳の授業を進めている 学校関係者：学校は様々なテーマに沿った道徳の授業を展開し、そのことを地域に発信している</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・学期ごとに各学年共通題材による研究を行い、授業力向上を図れるよう、年計通りに授業を進める ・さらに、道徳通信や学級通信で保護者に伝える等</p>	<p>【達成状況】 生徒：86.9%(89.0%) ○ 保護者：77.8%(79.8%) △ 教職員：91.9%(92.1%) ○ 学校関係者：100% ・今年度から道徳が教科化され、『考え議論する道徳』を目指し、授業研究を進めてきた。その成果が現れ、生徒による活発な意見交換が見られた。保護者の方にも一定の評価を得ているが、どのような内容かわからないといった意見が多く、道徳通信等で伝えていく工夫が必要である。 【次年度の具体策】 ・道徳通信の継続 ・共通題材を用いた授業の実施</p>
	<p>7 道徳的実践力 生徒：道徳の時間に考えたことを実践している 保護者：家庭で道徳の時間に考えたことを実践することに関して話題にすることがある 教職員：道徳の授業の中で道徳的実践に結びつくよう指導している 学校関係者：生徒は、地域において、道徳的に正しい行動を実践しようとしている</p> <p>【目標指数】 生徒 70% 保護者 60% 教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・道徳の時間に考えた内容を保護者に分かりやすく伝えるため、担任以外の先生が担当し、道徳通信を毎週出す。(文字は大きく少なく、写真を多めに)なお、道徳通信には価値項目を必ず入れる。(価値項目は噛み砕いて分かりやすく書く)等</p>	<p>【達成状況】 生徒：60.4%(69.7%) × 保護者：39.6%(39.8%) × 教職員：89.2%(97.4%) ○ 学校関係者：60.0% ・生徒の肯定的な意見が昨年を9.3%下回ってしまった。また、保護者回答では、実践について話題にすることが少ないと考える意見が過半数であり、実践していくための具体的な方策が必要である。教師側としては、道徳通信の発行が滞ってしまい、具体策の実施に課題が残った。 【次年度の具体策】 ・アンケート項目の見直し 生徒：道徳の時間に考えたことを実践しようとしている 保護者：子どもは、進んでよいことをしようとする心が育っている ・道徳通信の継続</p>

	<p>8 学校行事 生徒：学校行事に積極的に取り組み、感動を共にし充実感が味わえた 保護者：学校は学校行事を通して子どもが感動を共有し、充実感が味わえるようにしている 教職員：学校行事を通して生徒が感動を共有し、充実感が味わえるようにしている 学校関係者：学校は学校行事を通して、生徒が感動を共有し、充実感が味わえるようにしている</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・行事の計画の中で、生徒ができる部分を洗い出し、生徒の主体的活動を支援していく。 また、生徒主体の活動を少しずつ増やしていく 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：86.6%(85.7%) ○ 保護者：89.4%(88.5%) ○ 教職員：100%(100%) ○ 学校関係者：100% ・生徒、保護者ともに肯定的な意見が85%を上回り、概ね達成されていると考えられる。生徒は、行事を通して成長し、保護者も行事を楽しみにしている様子が見える。学校行事の目指す目標を明らかにし、充実感を味わえるようにしていきたい。 【次年度の具体策】 ・3年間を見通した支援を行うため、各学年に応じた支援内容の充実を図る。</p>
	<p>9 清掃活動 生徒：清掃活動に一生懸命に取り組んでいる 保護者：子どもは家の手伝いをしている 教職員：清掃活動において「4つのルール」を徹底させている 学校関係者：生徒は、地域において勤労・奉仕的な活動に参加している</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 60% 教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・清掃時のルールを徹底し、勤労意欲を高めるとともに、家の手伝いを奨励する 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：88.5%(91.7%) ○ 保護者：53.4%(50.8%) × 教職員：67.6%(86.8%) × 学校関係者：80.0% ・清掃活動には、生徒は高い数値で一生懸命取り組んでいると答えているが、保護者は、半数近くが、家での手伝いはあまりしていないと答えている。教職員側で、指導が十分でなかったという意見が増えてしまった。改善が必要である。 【次年度の具体策】 ・アンケート項目の見直し 保護者：子どもは身の回りの整理整頓を心がけている ・お掃除応援隊の支援を受けて、勤労意欲を高める。</p>
	<p>10 生活習慣（本年度変更） 「早寝早起き」（11時就寝、6時起床） 生徒：早寝早起きを実践している 保護者：子どもは早寝早起きを実践している 教職員：「早寝早起き」を指導している 学校関係者：学校は「早寝・早起き」（11時就寝、6時起床）を実践している</p> <p>【目標指数】 生徒 70% 保護者 70% 教師 80%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・教育講演会での啓発 ・お便りの配信 ・担任からの啓発 ・11時就寝、6時起床の呼びかけ 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：67.1%(—%) △ 保護者：62.3%(—%) × 教職員：81.1%(—%) ○ 学校関係者：60.0% ・昨年より、就寝時間を1時間早く、起床時間を30分早く設定したところ、昨年度より生徒は10.5%、保護者は17.7%も低い数値となった。なかなか早寝は難しいという意見が多かったが、中学生の発達段階を考え、改善していく必要がある。 【次年度の具体策】 ・時間設定の見直し検討 ・学年部会等で保護者の方に促す</p>
<p>プロジェクト</p>	<p>11 生活習慣（朝食） 生徒：朝食を毎日食べている 保護者：子どもは朝食を毎日食べている 教職員：生徒が朝食を毎日食べるよう指導している 学校関係者：学校は、生徒が朝食を毎日食べるよう指導している</p> <p>【目標指数】 生徒 95% 保護者 95% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・朝食チェックを行い、その結果をフィードバックして保護者に伝えていく 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：90.1%(93.0%) △ 保護者：92.3%(93.3%) △ 教職員：91.9%(92.1%) △ 学校関係者：80.0% ・朝食を食べるということは、生徒、保護者ともに90%を超え、高い数値ではあるが、あまり食べない、全く食べないという生徒が37名(昨年より8名増)もいることは大変心配である。1日を過ごす重要なエネルギー源であり、脳の活性化させるという観点から、100%を目指したい。 【次年度の具体策】 ・1年生から、3年間かけて指導する ・実態に合わせて、特定の欠食者に指導していく</p>

	<p>12 生活習慣（食生活） 生徒：好き嫌いなく食べることができる 保護者：子どもは主菜副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身につけている 教職員：主食、主菜、副菜を交えて食べるなど、望ましい食習慣を身に付くよう指導している 学校関係者：学校はは主食、主菜、副菜をまじえて食べるなど、望ましい食習慣が身に付くよう指導している</p> <p>【目標指数】 生徒 80% 保護者 80% 教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・準備を早くするための具体的な指導 ・マナー指導 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：73.7%(77.8%) × 保護者：79.5%(79.9%) ○ 教職員：83.8%(92.1%) × 学校関係者：80.0 % ・生徒は昨年より 4.1 %下回り、保護者は昨年とほぼ同じであった。好き嫌いで食べていない生徒が 105 名(22.4 %昨年より 12 名増)もあり、心配される。バランスのよい食事が、心と体の成長を促すため、嫌いな物でも少しは食べるという習慣を身につけさせたい。 【次年度の具体策】 ・嫌いなものもまず 1 口、徐々に ・準備を早くして、食べる時間を確保する ・担当が働きかける</p>
	<p>13 部活動 生徒：部活動に一生懸命に取り組んでいる 保護者：学校は部活動の指導を一生懸命に取り組んでいる 教職員：部活動の指導を一生懸命にやっている 学校関係者：学校は部活動の指導に一生懸命に取り組んでいる</p> <p>【目標指数】 生徒 90% 保護者 90% 教師 95%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・主担当も副担当も早く部活に行く ・生徒の様子をよく観察する 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：89.4%(90.6%) ○ 保護者：88.9%(87.8%) △ 教職員：94.6%(97.4%) ○ 学校関係者：100 % ・部活動に関しては、肯定的な回答が、生徒、保護者ともに、たいへん高い数値を示している。本年度、町教委から部活動の在り方に関する方針が出され、それを含め、保護者からは様々な意見をいただいている。部活動の目的を理解していただき、生徒の成長のためになる活動を展開したい。 【次年度の具体策】 ・主担当も副担当も早く部活に行く ・生徒の様子をよく観察する (継続指導)</p>
	<p>14 安心な学校生活 生徒：学校生活が楽しい 保護者：子どもを学校に安心して預けられる 教職員：信頼される学校づくりに努力している 学校関係者：学校は、信頼される学校づくりに努力している</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 90% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・学業指導の「学びに向かう集団作り」の良かったところを洗い出し、学業指導の手引きの内容の改善・充実を図る 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：88.9%(83.6%) ○ 保護者：94.4%(93.0%) ○ 教職員：97.4%(100%) △ 学校関係者：100 % ・88.9 %の生徒が、学校生活は楽しいと答え、昨年を 5.3 %上回った。保護者からも大変高い数値で、学校が楽しい、安心して預けられるという回答を得た。生徒、保護者、地域、学校が一体となり、今後も、安心・安全な学校生活を提供していけるよう努力を続けたい。 【次年度の具体策】 ・学業指導の「学びに向かう集団作り」の良かったところを洗い出し、学業指導の手引きの内容の改善・充実を図る。</p>
プロジェクト生き方	<p>15 いじめ対応 生徒：みんなが安心して生活気持ちよく生活できるよう行動している 保護者：学校はいじめが起らないように、また起こったときにはすぐ解決するよう取り組んでいる 教職員：いじめが起らないように、また、起こったときにはすぐに解決するように取り組んでいる 学校関係者：学校はいじめが起らないように、また、起こったときにはすぐ解決するよう取り組んでいる</p> <p>【目標指数】 生徒 85% 保護者 80% 教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】 ・情報の共有化とスムーズな連携を引き続き強化していく。エンカウンターやスクールバディなども取り入れて未然防止につなげる ・とくに集会活動や学級活動の充実、教職員のサポート体制を強化する。いじめアンケートを継続して行う 等</p>	<p>【達成状況】 生徒：85.3%(85.4%) ○ 保護者：76.8%(76.8%) △ 教職員：100%(100%) ○ 学校関係者：100 % ・昨年同様、生徒の 85 %以上が肯定的な評価であるが、保護者には、まだまだ理解が得られていないところがある。教師は、いじめは絶対に許さない、という強固な姿勢で取り組んでいる。全員が安心して気持ちよく生活できる学校づくりに向け、一層努力する必要がある。 【次年度の具体策】 ・情報の共有化とスムーズな連携を引き続き強化していく。エンカウンターやスクールバディなども取り入れて未然防止につなげる。とくに集会活動や学級活動の充実、教職員のサポート体制を強化する。いじめアンケートを継続して行う。</p>

<p>16 基本的な生活習慣</p> <p>生徒：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣が身に付いている</p> <p>保護者：学校は時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている</p> <p>教職員：時間を守る・整理整頓・あいさつの生活習慣の定着を図っている</p> <p>学校関係者：学校は「時間を守る」「整理整頓」「あいさつ」の生活習慣の定着を図っている</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 80%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの指導とともに良いあいさつを褒める ・あいさつ運動を継続するとともに、教師自らが率先垂範であいさつを行うことで、あいさつをとくに強化していく等 	<p>【達成状況】</p> <p>生徒：87.6%(85.9%) ○</p> <p>保護者：90.3%(87.0%) ○</p> <p>教職員：89.5%(92.1%) △</p> <p>学校関係者：100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣については、生徒、保護者ともに概ね肯定的な回答を得ている。しかし、地域の方からは、あいさつが以前よりできなくなったとの意見もいただいている。できているところをさらに伸ばし、よい習慣となるようにしたい。 <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの指導とともに良いあいさつを褒める。あいさつ運動を継続すると共に、教師自らが率先垂範であいさつを行うことで、あいさつをとくに強化していく。
<p>17 地域貢献活動</p> <p>生徒：地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれている</p> <p>保護者：学校は子どもが地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している</p> <p>教職員：生徒が地域行事に参加したり、地域の方に挨拶したり、地域や他の人のためになる行動がとれるよう指導している</p> <p>学校関係者：学校は生徒が地域行事に参加したり、地域の方にあいさつをしたり、地域や他の人のためになる行動がとれるように指導している</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 70%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 90%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの実践に合わせて、ジュニアボランティアと学校支援ボランティアのさらなる充実を図る ・クリーン芳賀に積極的に参加できるように、PRを強化する等 	<p>【達成状況】</p> <p>生徒：76.7%(78.9%) ○</p> <p>保護者：83.6(85.3%) ○</p> <p>教職員：94.7%(92.1%) ○</p> <p>学校関係者：100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の地域ボランティアへの参加は、地域の方からたいへん高い評価を受けている。保護者の方や地域の方から、生徒にもっと参加させたいという意見が多い。部活動等との兼ね合いで参加しづらいとの意見もある。参加し経験することの意義や重要性を感じているので、参加できる体制づくりをさらに整えていく必要がある。 <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの実践に合わせて、ジュニアボランティアと学校支援ボランティアのさらなる充実を図る。
<p>18 夢の達成</p> <p>生徒：夢を持ち、その達成のためにがんばっている</p> <p>保護者：学校は子どもが夢を持ち、その達成のためにがんばるよう指導している</p> <p>教職員：子どもが夢を持ち、その達成のために頑張るよう指導している</p> <p>学校関係者：学校は生徒が夢をもち、その達成のためにがんばるよう指導している</p> <p>【目標指数】</p> <p>生徒 80%</p> <p>保護者 80%</p> <p>教師 100%</p>	<p>【本年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てた進路指導の充実を図る（学級活動の確保） ・教育相談の充実を図る等 	<p>【達成状況】</p> <p>生徒：76.3%(73.8%) △</p> <p>保護者：75.1%(74.3%) △</p> <p>教職員：97.4%(97.4%) △</p> <p>学校関係者：100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活は、生涯にわたって学ぶための基盤づくりとなるので、生徒が夢をもちその達成のために努力することは大変大切である。そのため、家庭との連携を深め、教育環境を整え、支援し、さらに意識を高めていきたいと考える。 <p>【次年度の具体策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てた進路指導の充実を図る（学級活動の確保）。 ・教育相談の充実を図る。

【学校関係者自由記述】

プロジェクト知について

- ・NO1, 3での、生徒・教職員と保護者の評価の差が気になります。学校の努力が保護者に伝わっていないのか、保護者の希望が高すぎるのか、どちらにしても情報の共有、目線をそろえることが必要かと思います。
- ・コミュニケーション力=発表力ではないのでは、という話は、委員会でも出ていました。
- ・NO2では、生徒の評価は×となっていました。NO3「生徒の主体的・対話的な学びを生み出す」、NO6「考議論する道徳」、NO17「地域の方にあいさつしたり人のためになる行動が取れている」の評価には○がついています。苦手と思いつつも、知らず知らずコミュニケーションが取れているのではないかと思いました。コミュニケーション力は、複数の項目に関わっているので、一つの項目だけでは読み取るのは難しいかもしれません。
- ・NO2「コミュニケーション力」といいつつも発表力向上に取り組んでいるので、評価がしにくい。大勢の前で発表するのは大人でも難しい。グループワークの数人の中での発言、発表から自信をつけさせてはどうか。

プロジェクト徳について

- ・清掃活動についてのアンケートは、次年度予定している見直しをした方が良いと感じていました。
- ・NO8「学校行事」は、生徒・保護者とも楽しみにしているので高評価。反面、NO8「家の手伝いをしているか」は、させているか?の問にも値する。保護者が顧みるべき項目である。「手伝いをさせて、褒め、認める。」を家庭に進めてください。
- ・地域において勤労・奉仕的な活動を行うためには、まず地域が受け入れる体制が必要だと思われる。

プロジェクト体について

- ・NO10~12については、保護者の努力が必要になってくるので、難しいところです。
- ・NO10~12は、学校よりは家庭の取組が大と考える。ゲームやSNSの利用も大きく関わって、早寝、早起き、そして朝食の量に関わっていると考える。心と体を作る大切な要素であると伝え続けてください。
- ・学習の心得七箇条に「学年+1時間」の家庭学習とあり、達成が難しいと思います。

プロジェクト生き方について

- ・地域貢献活動に関してはたいへんお世話になっております。中学生ボランティアを受け入れる立場としては、ボランティアは特別なことではなく、一つの日常ととらえてもらいたいと考えています。また、プラスとなる活動をしてもらうために、自ら考えて行動することも大切にしています。中学生の心の成長は目を見張るものがあります。そのためは、環境を変えることが重要だと考えます。生徒と先生だけの学校から、ちょっと先輩の高校生・大学生、う〜んと先輩のおじさん・おばさん後輩の小学生・幼児と世界を広げていってほしいです。その窓口となる地域連携教員、ボランティア担当教員とは、情報を共有していきたいと思っています。地域連携強化のために、よろしくお祈りします。
- ・笑顔で明るい声で交わされる挨拶ほど、気持ちが通い、心温まる。地域ボランティアや職員が心がけて実践していき、受けた生徒が喜びを感じ、相手にも同じように感じてもらうと考えるまでになるとよい。地域の方々の中には、自ら子どもたちに挨拶をせずに、求めてばかりいる大人もいる。そこは残念である。

その他

- ・学力向上を含め、全ての項目において、学校の努力や向上に向けての取組に敬意を表します。アンケート結果も深く分析されており、各項目における取組の強化が期待できます。
- ・全体的には、学校と子ども(生徒)との関係については問題はなく、現在の方向性で取組を進めていただきたいと思います。教育全般では、むしろ家庭に課題があることが多いと感じています。学校と協力して、行政や地域がいかに取り組んでいけるかが、今後の子ども(生徒)の成長にも重要な位置を占めると感じます。学校運営協議会でも、そういった視点での協議や取組が必要と考えます。
- ・人間教育の場であるので、職員間でも風通しの良い人間関係を作っていただき、温かい目の中で、生徒たちが学び、家庭での話題となるよう努めてください。また、学校支援ボランティアとしても、同じ姿勢で取り組んで参ります。

9 まとめと次年度に向けて（学校関係者評価を受けて）

【プロジェクト知について】

生徒の学力向上については、保護者回答は肯定的な意見が昨年より3.6%増加し84.6%と、一定の評価を受けている。しかし、教職員の自己評価とは差が大きい。その点については、近年、授業公開や様々な便り、成績資料の配付や面談などにより情報公開を行ってきた。その成果が徐々に現れていることは確かで、肯定的な意見の増加につながったと考えている。しかし、その中で、学校でどういふことをやっているかわからないといった意見もある。お互いに情報を知らせたい、知りたいと考えているので、まだまだ継続していく必要を感じている。また、今後、学力向上を図るために、家庭学習の充実が大切であることから、学校と家庭の連携の大切さを伝えていきたい。コミュニケーション力については、発表力を問う設問になっていることもありなかなか判断しづらいところもあるが、多くの発表の場で、発表力が高まっていることは確かである。今後は、実態に合わせて設問を検討をし、変更していく必要がある。

【プロジェクト徳について】

道徳の教科化を受け、今年度も「考え議論する道徳」の授業を目指し、研究授業や授業研究を行い、授業力の向上を図ってきた。その成果が現れ、道徳の授業では、活発な意見交換が見られるようになった。道徳的な考え方を高め、それを実社会で実践できるようにすることが道徳の授業の最も大きな目標である。さらに研究を続けていきたい。保護者には、道徳の授業公開をするなどして、授業の理解を求めているが、どのような内容かわからないといった意見が15%を超え、説明不足を感じている。清掃活動については、生徒は概ね一生懸命に取り組んでいると答えていたが、それによって、家庭での手伝いや、地域での勤労・奉仕的な活動につながるかどうかという点は、判断が難しい。今後、それぞれの質問項目を検討していきたい。

【プロジェクト体について】

中学生の心身を健全に育成していくには、食生活は最も大切なものの1つである。朝食については100%となるように注意喚起していく必要がある。本年度最も大きな変化があったのは睡眠についてである。就寝時刻を1時間早く、起床時刻を30分早くする目標としたところ、前年より生徒は10.5%、保護者は17.7%も低い数値となった。7時間の良質な睡眠は発達の生徒にとって大変重要である。しかし、午後11時就寝という時刻は早くして難しいといった意見が多かった。この目標を達成するには、単に早く寝ればよいということではなく、部活動や家庭学習の時間を考え、計画していくことが必要となる。今後の大きな課題である。達成するためには、保護者と学校の連携がさらに大切になってくると考える。部活動については、概ね良好な評価を得ている。町教委から出された「部活動のあり方に関する方針」を受け、それをほぼ守って活動しているが、保護者からはいろいろな意見をいただいている。さらに連携を図り、短時間で効果が上がる方法を考えていきたい。

【プロジェクト生き方について】

いじめ対応についてはある程度評価されているが、いじめの根絶が大切なことであり、100%安心して学校生活を送れるよう、家庭、地域と連携を図っていく必要がある。これからの学校教育は、地域との連携を大切にし、生徒の成長を促していく必要性が大きい。町では中学生ジュニアボランティアを組織し、活動を支援してもらっている。活動から5年を経過し定着してはいるが、部活動など様々な活動の関係から、参加は一部に限られていることが多い。活動が日常化しもっと多くの生徒が参加することで地域の中で生徒が育っていくシステムができあがってくると、地域と学校が一体となり、お互いのことを理解することにもなり、より明るい挨拶を交わすことができるようになると思われる。学校支援ボランティアとして学校に入って生徒支援の一端を担ってくれる地域の方が増えてきているので、コミュニティスクール化され3年目となる来年度は、さらに地域との連携を進めていけると考えている。

【その他について】

全体的に、保護者からの評価は概ね良好であり、学校と生徒の関係性についても良好であるといえる。しかし、学校としては、課題を真摯に見つめ、具体策を講じていく必要がある。また、家庭での課題が指摘されているところがあり、学校と家庭との連携が今まで以上に重要になってくると考えられる。

今後、学校は、地域との連携を強くしていくことが必要不可欠であると考えられる。ボランティア活動への参加など、地域と連携し、学校で学んだことを地域に発信することで、多くの地域の方の中で生徒は成長していくと考えられる。また、地域の方が学校支援ボランティアとして学校に入り、その力を貸してくれることで、生徒の学習を助けてもらうと共に、生徒と地域の方との連携を深め、関係づくりに役立つものとなる。さらに、学校と地域、そして行政がいかに協力し様々な学校課題にいかに取り組んでいくべきか、学校運営協議会と協力し合い、方策を考えていきたいと思う。